

～ Series Gerontology ～  
「高齢者マーケットの切り口 -QOL- (第3回)」

オルフェウスコンサルティング株式会社  
代表取締役社長 沢部 浩久  
(元(株)リサーチ・アンド・デベロップメント 代表取締役副社長)

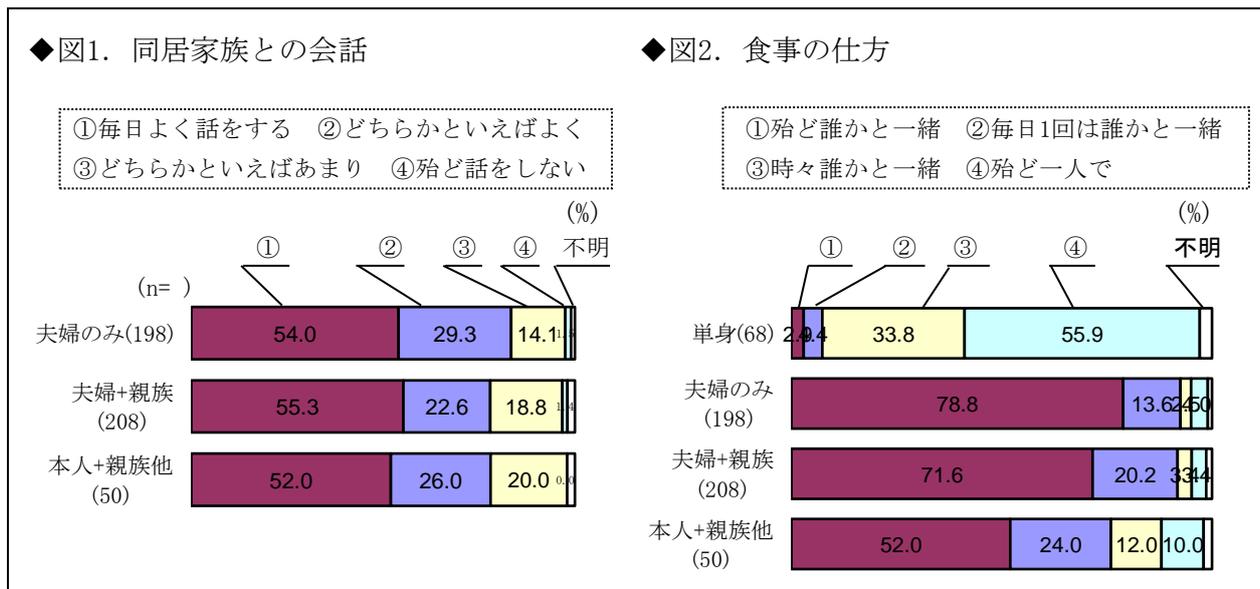
1. 家族とのコミュニケーション

今回は就労に関するデータをご紹介しましたが、今回は家族との会話やご近所とお付き合いといった高齢者のコミュニケーションの様子についてのデータの一部をご紹介します。

(1) 前期高齢者 (郵送調査)

同居家族がいる高齢者がその家族と会話をどのくらいするのかを見たのが図1です。同居形態による差異はありませんが、どの世帯でも「あまり若しくは殆ど話をしない」という回答が2割程度あるのが気になるようです。

また、普段の食事を誰かと一緒に取るかを尋ねた結果が図2ですが、やはり単身の場合は一人で食事をすることが多いようですが、誰かと食事を一緒に取ることはコミュニケーションの機会でもあるので、特に単身者にとっては重要なことであるかもしれません。そのような意味からすると、「時々」以上の頻度で誰かと一緒に食事を取る割合が単身者で40%程度というのは少し寂しい現状なのかもしれません。

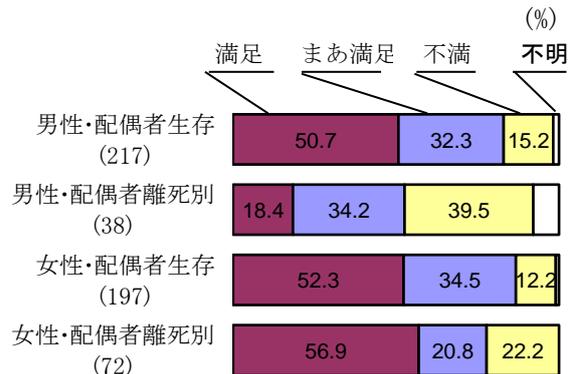
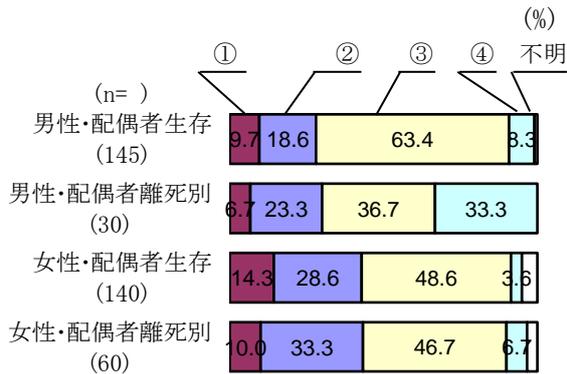


次に別居している家族や親族とのコミュニケーションを見たものが図3です。電話又はメールなどで連絡している頻度を尋ねたところ、男性より女性の方が頻度が高いようです。男性は特に配偶者離死別者層で連絡を取らない割合が高く、女性の同層と比べると随分と行動が異なることが特徴として挙げられます。また、図4は家族や親族とのふれあいについてどの程度満足しているかを聴取した結果を見たものですが、ここでも男性の配偶者離死別者層での満足度が他層より低くなっています。

◆ 図3. 別居家族・親族との電話・メール頻度

◆ 図4. 家族・親族とのふれあい満足度※

① 殆ど毎日話している ② 毎日ではないがよく話す  
③ 時々話している ④ 殆ど連絡していない



注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

## (2) 後期高齢者 (訪問面接調査)

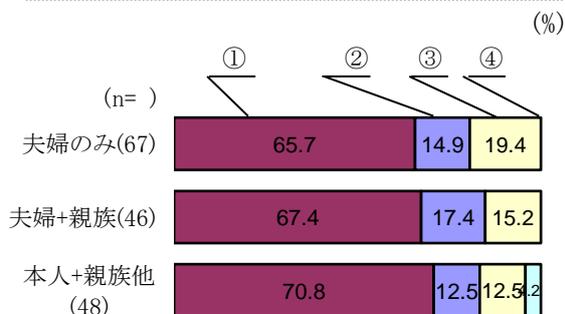
同様に後期高齢者について、家族がいる高齢者がその家族と会話をどのくらいするのかを見たものが図5です。傾向は前期高齢者と同様ですが、全体的に「毎日よく話をする」という割合が高くなっています。

また、普段の食事を誰かと一緒に取るかを尋ねた結果が図6ですが、単身層を除き「殆ど誰かと一緒に」に食事をする割合が前期高齢者のそれと比べて高くなっています。年齢が高くなるにつれて、食事を誰かと一緒にすることはより重要な意味合いを持つのかもしれません。

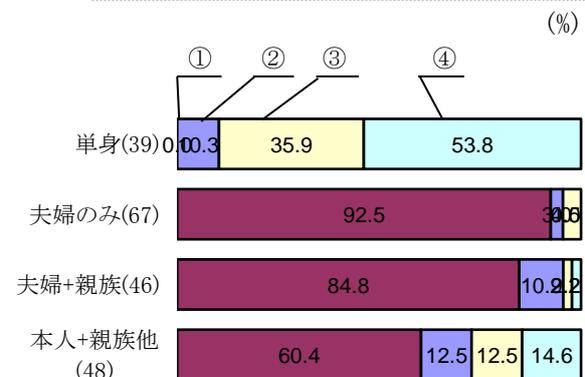
◆ 図5. 同居家族との会話

◆ 図6. 食事の仕方

① 毎日よく話をする ② どちらかといえばよく  
③ どちらかといえばあまり ④ 殆ど話をしない

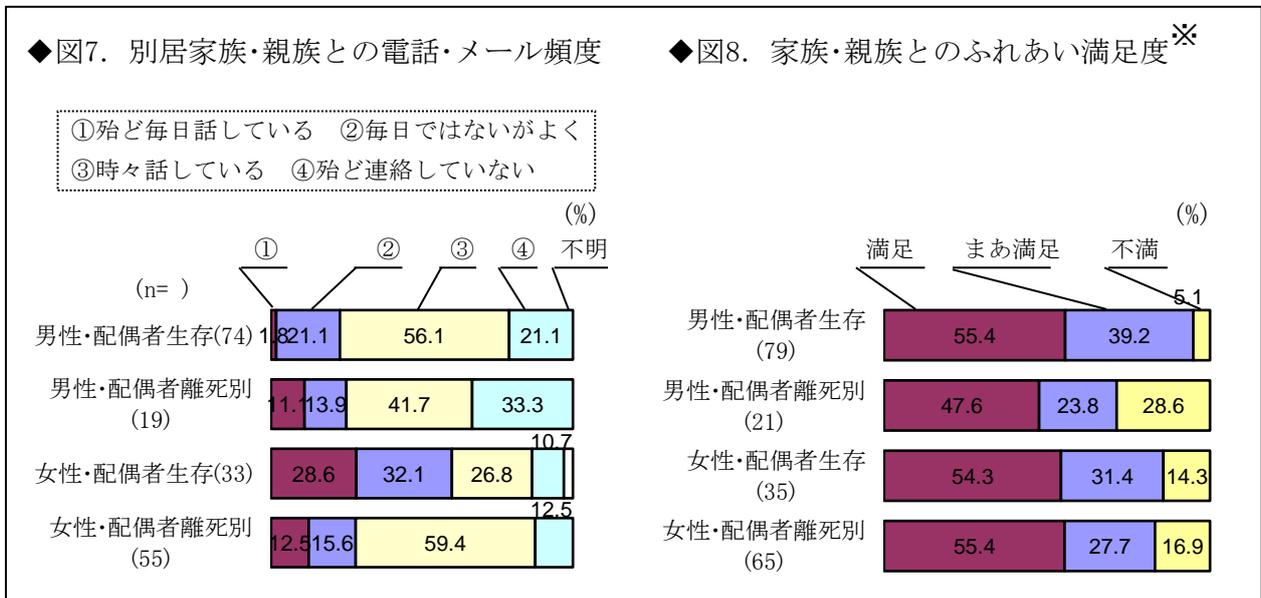


① 殆ど誰かと一緒に ② 毎日1回は誰かと一緒に  
③ 時々誰かと一緒に ④ 殆ど一人で



続いて同様に、別居している家族や親族とのコミュニケーションを見たものが図7です。前期高齢者の傾向と比べると、「殆ど連絡していない」という割合がどの層も一定数以上(10%以上)存在しているのが異なる点です。また、女性の配偶者離死別層での頻度が前期の同層に比べて若干低くなっています。

また、図8は家族や親族とのふれあい満足度を見たものですが、男性の配偶者離死別者層での満足度は他層より低いですが、前期高齢者の同層に比べると満足度は高くなっています。先に見た家族・親族との会話の頻度が前期高齢者より高くなっている分、満足度が高くなっているのでしょうか。

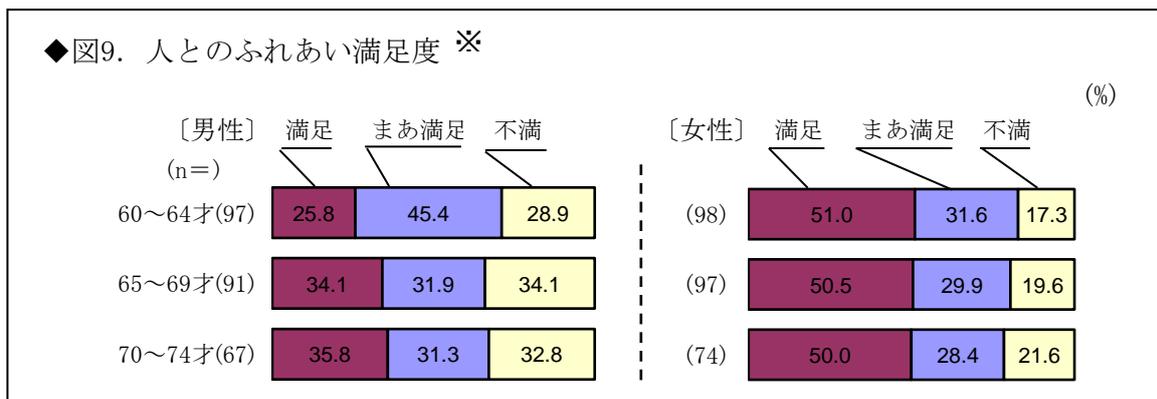


注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

## 2. 人とのふれあい満足度

### (1) 前期高齢者 (郵送調査)

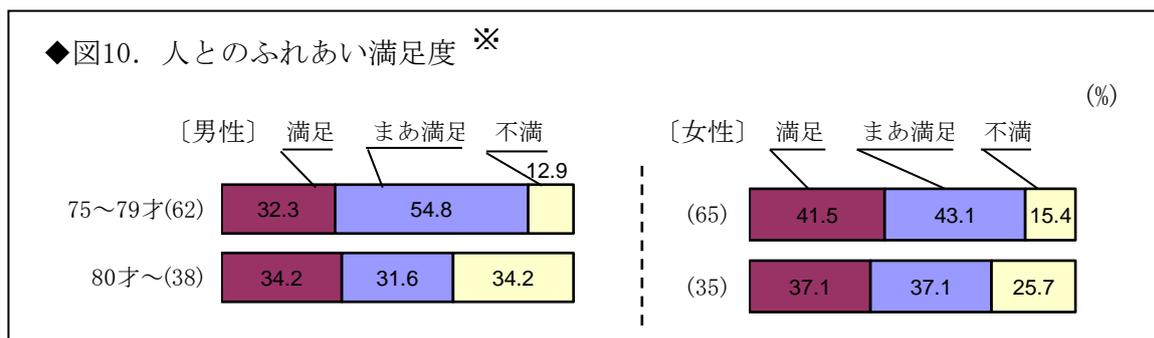
余暇活動、ご近所付き合い、地域や社会貢献の活動、仕事、友人とのお付き合いなどを総合的に見て、人とのふれあいということにどの程度満足しているかを尋ねた結果が図9である。どの年齢層でも男性より女性で満足度が高いのが特徴的である。



注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

(2) 後期高齢者（郵送調査）

同様に後期高齢者について見ると、70代後半より80代以上で不満割合が高くなっています。また、前期高齢者に比べて男女差が縮小している傾向にあります。

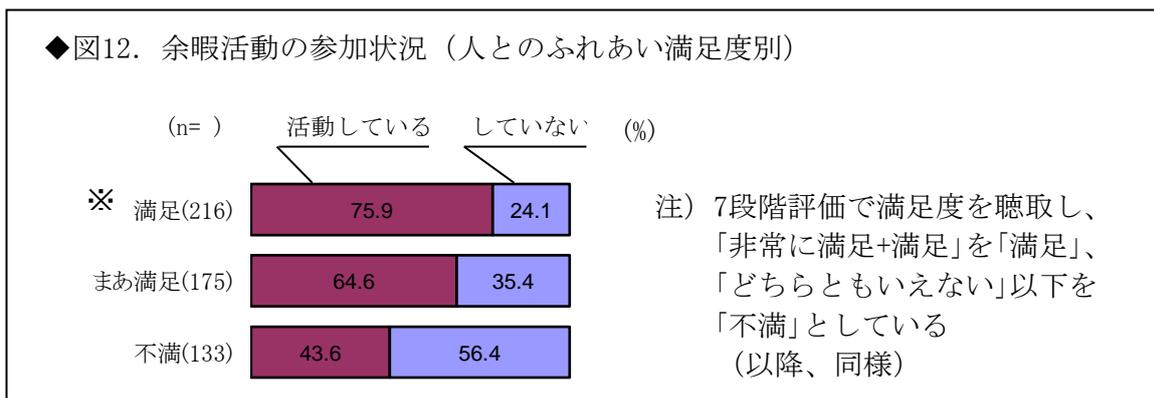
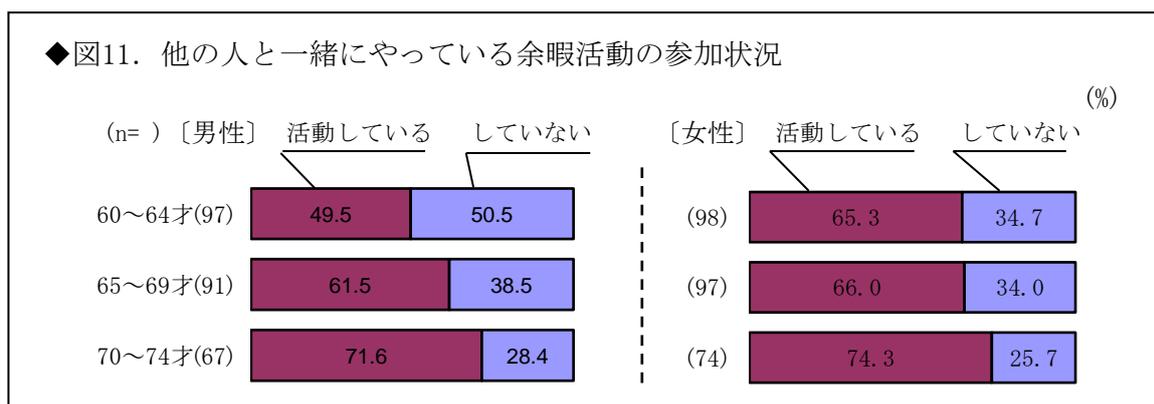


注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

### 3. 他の人と一緒にする余暇活動

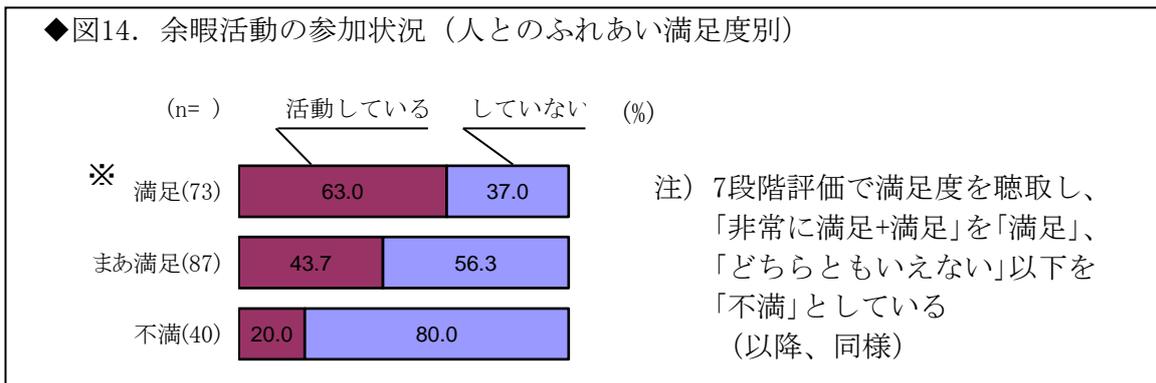
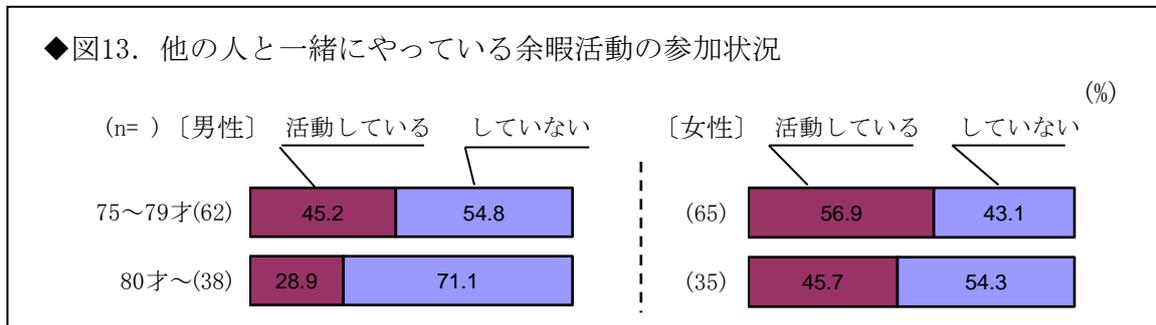
(1) 前期高齢者（郵送調査）

仲間と一緒に或いは教室に通ったりしている余暇活動を尋ねたところ、男女共年齢が高くなるにつれ余暇活動に参加している割合が高くなっています。（図11参照）  
また、余暇活動の参加状況を人とのふれあい満足度別に見ると、満足度が高い人ほど参加している割合が高くなっています。（図12参照）



(2) 後期高齢者（訪問面接調査）

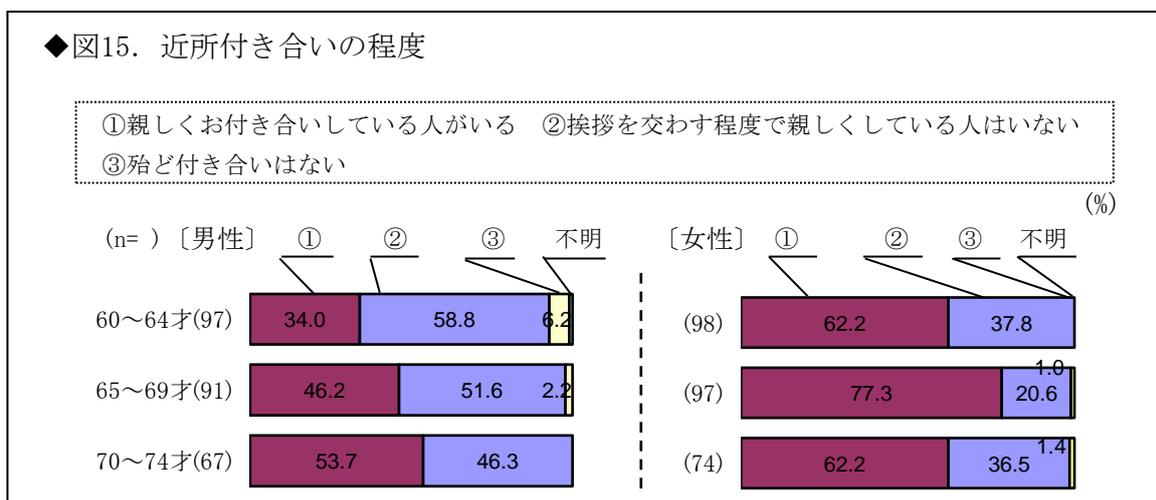
同様に後期高齢者について見ると80才以上の層では参加割合は低くなりますが、それでも女性は46%が何らかの余暇活動に参加しています。（図13参照）  
参加状況を人とのふれあい満足度別に見ると、満足度が高い人ほど参加している割合が高くなっているのは前期高齢者と同様の傾向です。（図14参照）



4. 近所付き合いの状況

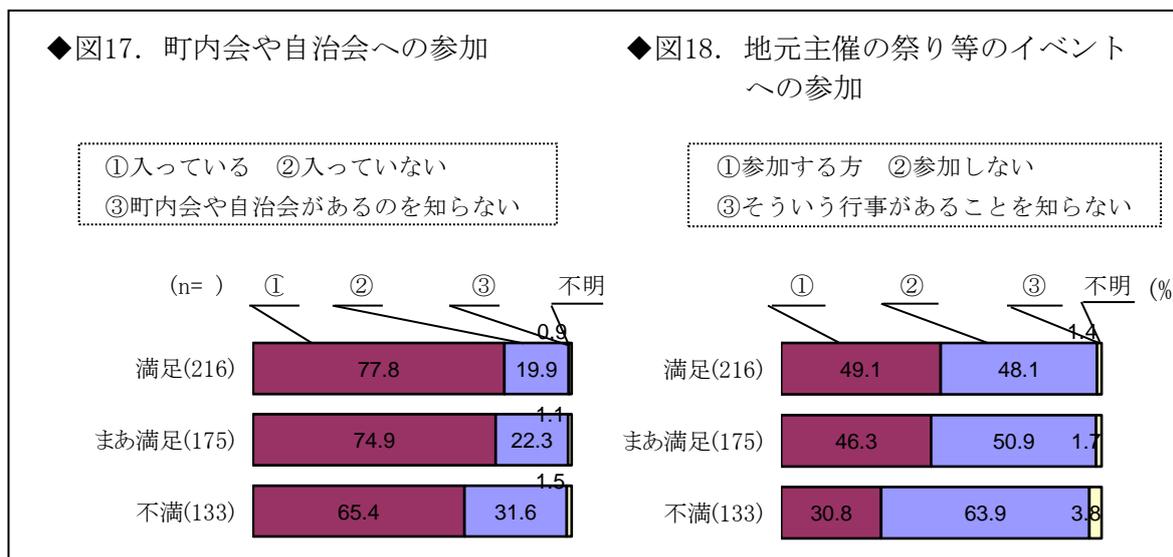
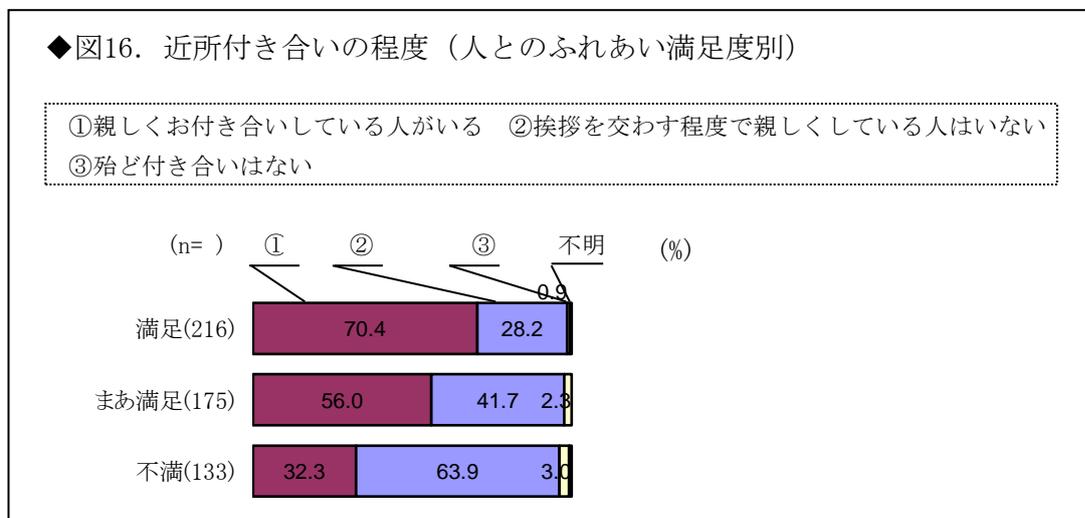
(1) 前期高齢者（郵送調査）

近所との付き合いの程度を尋ねた結果を見たものが図15です。男性より女性で付き合いの程度が高く、中でも60代後半層が高いのが目立ちます。男性は年齢が高くなるにつれて付き合いの程度が高くなっています。



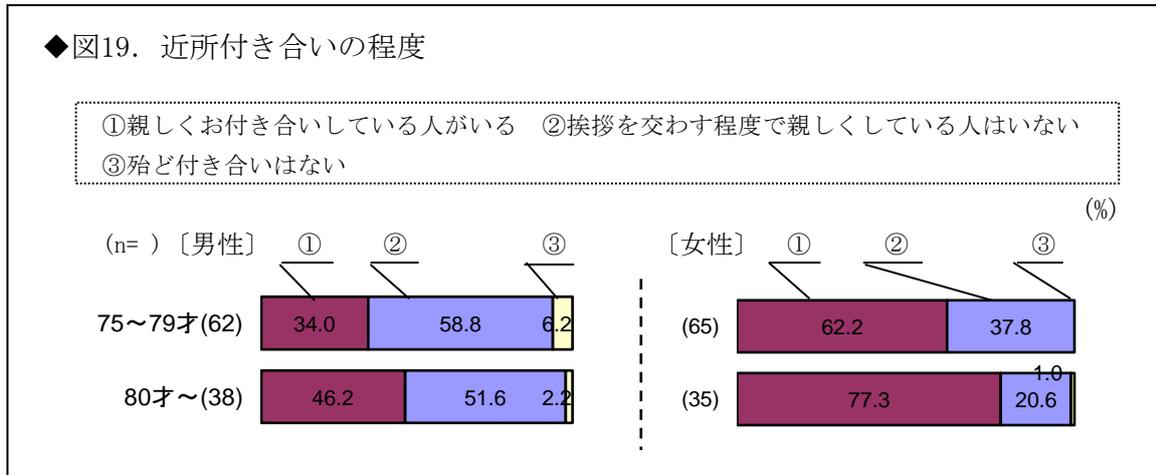
次に、近所付き合いの程度を人とのふれあい満足度別に見ると、満足度が高い人ほど付き合いの程度が高くなっています。（図16参照）

同じ観点で町内会や地元のイベントへの参加状況を見たものが図17及び図18です。人とのふれあい満足度の高い人ほど町内会・自治会や地元主催のイベントへの参加率は高くなっていますが、近所付き合いの程度に比べるとその程度差は大きくは有りません。どの程度親密な関係で付き合い合える人がいるかどうか、人とのふれあい満足度にはより影響するようです。

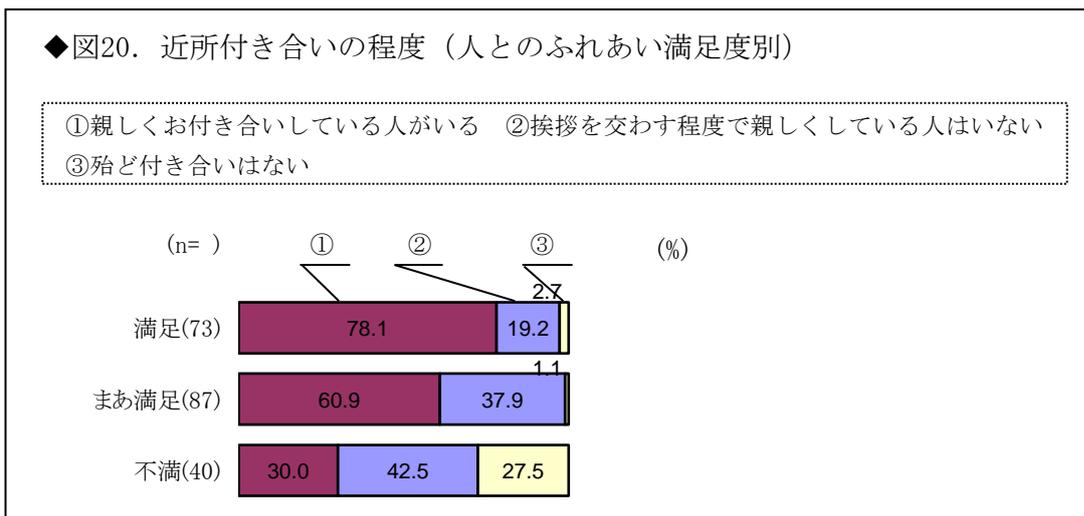


(2) 後期高齢者（訪問面接調査）

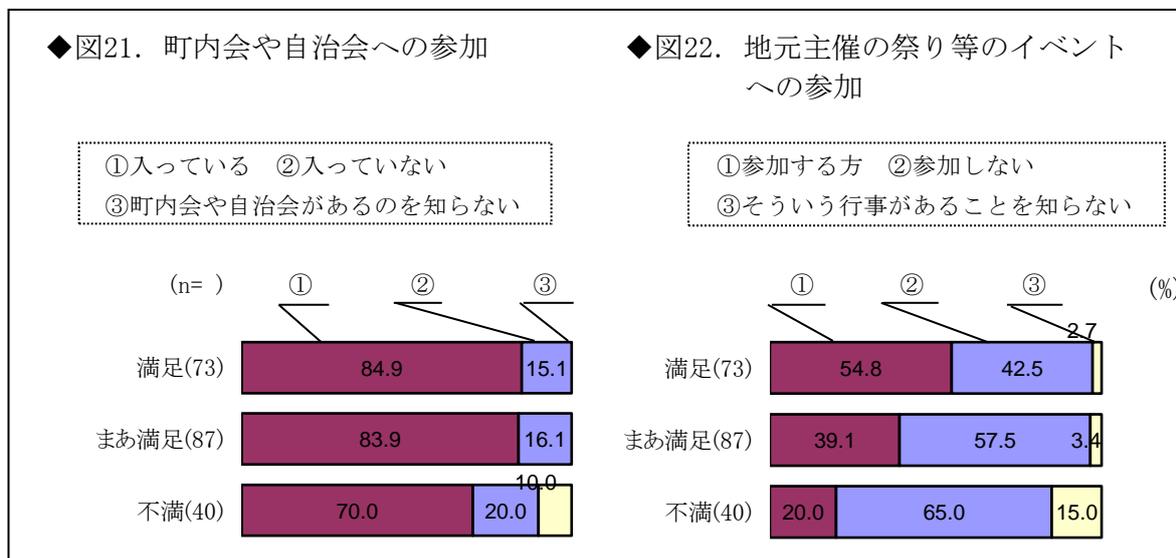
同様に近所との付き合いの程度を尋ねた結果を見ると、前期高齢者の傾向と同様に男性より女性で付き合いの程度が高いのが目立ちます。男女共70代後半より80代以上の層で付き合いの程度が高くなっています。



次に、近所付き合いの程度を人とのふれあい満足度別に見ると、満足度が高い人ほど付き合いの程度が高くなっていますが、前期高齢者と比べてその程度差が大きくなっています。人とのふれあい満足度が低い層では、「近所の付き合いは殆どない」と回答した割合が28%あります。（図20参照）



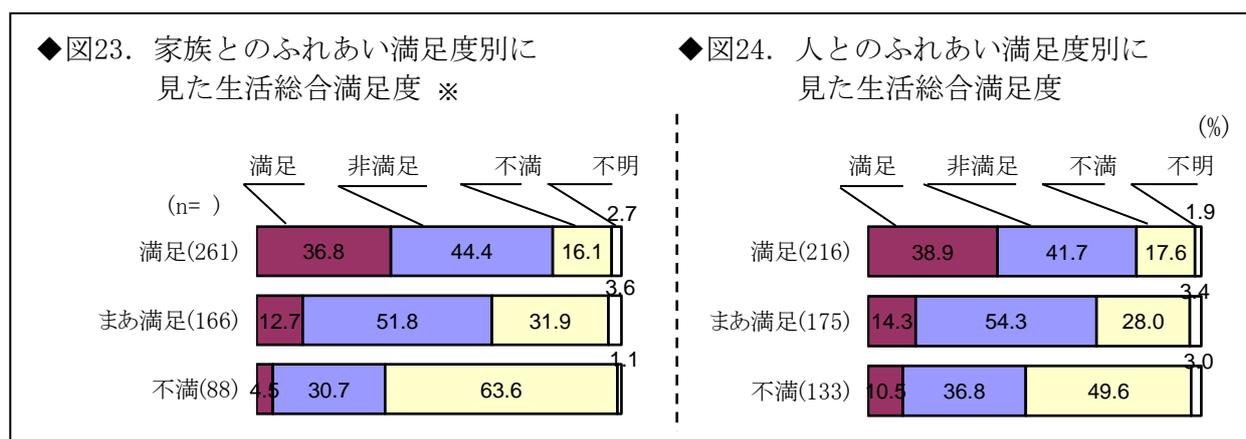
同じ観点で町内会や地元のイベントへの参加状況を見たものが次ページ図21及び図22です。前期高齢者と比べて町内会・自治会の参加率は高くなっており、人とのふれあい満足度が低い層でも参加率は70%あります。地元主催のイベント参加については、人とのふれあい満足度が高い人ほど参加率は高いのですが、前期高齢者に比べてその程度差は大きくなっています。



## 5. 家族及び人とのふれあいから見た生活満足

### (1) 前期高齢者

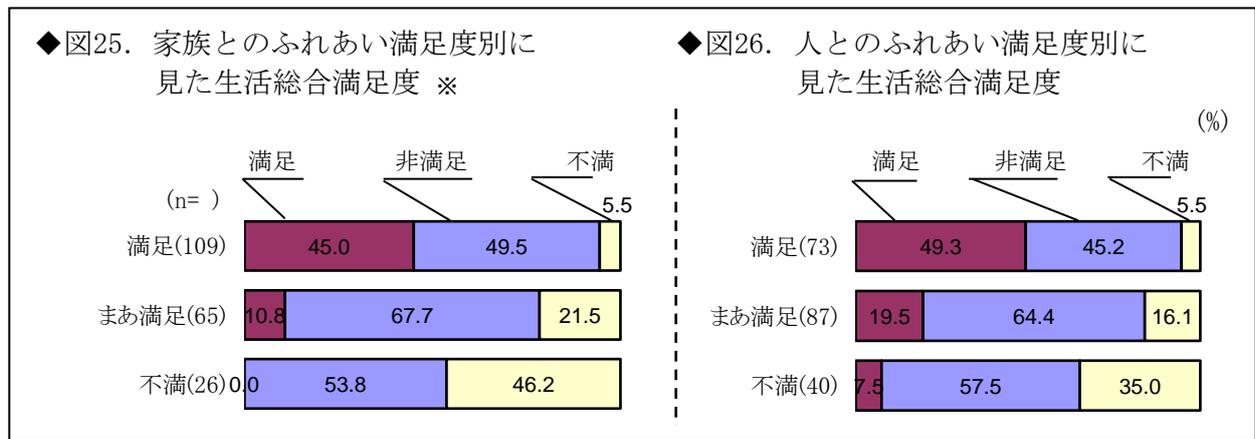
家族とのふれあい満足度別に生活総合満足度を見たものが図23です。家族とのふれあいの満足度が高いほど生活満足度も高くなっています。同様に人とのふれあい満足度別に見たものが図24です。人とのふれあい満足度が高いほど生活満足度も高くなっています。この二つの図を見比べてみると、家族とのふれあいに不満がある層で、生活満足の不満割合が高いのが目立っています。やはり家族とのふれあいは欠落すると生活満足が低下する基本的なニーズであるといえるのでしょう。



注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「まあ満足」を「非満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

### (2) 後期高齢者

同様に後期高齢者について見ると、家族とのふれあい満足度が高いほど生活満足度も高くなっていますが、前期高齢者と比べると家族とのふれあいに満足している層での生活満足の割合が高いことが特徴として挙げられます。これは人とのふれあい満足度別に見た時も同様の傾向が見て取れます。(次ページ図25及び図26参照) 前期高齢者に比べて後期高齢者で人とのコミュニケーションが更に重要であることを示しているといえるでしょう。



注) 7段階評価で満足度を聴取し、「非常に満足+満足」を「満足」、「まあ満足」を「非満足」、「どちらともいえない」以下を「不満」としている

## 6. 高齢者のコミュニケーション

ここまで前期及び後期高齢者のコミュニケーションの状況についてデータの一部をご紹介しました。年齢に係わらず、人とのコミュニケーションは人が生きていく上で必要不可欠なものであるのですが、高齢者にとっては「生活満足」に如実に影響を与えるものであることが今回の調査から浮き彫りになりました。また、人とのコミュニケーションで最もベースとなるのはやはり家族や親族ですが、ご近所をはじめとする身近な地域とのつながりも非常に重要な位置付けにあることが今回の調査から推察されました。

内閣府が実施している「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」(最新版は平成21年10～11月に実施したものが公開されている)の結果においても、「地域のつながりは必要」(94%が回答)とされています。現在、社会的問題になっている「孤独死(誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死)」についても「地域のつながり」を感じない人ほど「孤独死を身近に感じる」という結果になっています。

QOLを高める為にも家族とのコミュニケーションは勿論のこと、普段の生活に直接係わる地域社会とのつながりをどのように形作っていけば良いのか、これが非常に大きなポイントになりそうです。高齢者の置かれている状況とニーズを理解した、コミュニケーションを支援する“マーケット”についてはまだまだ一考の余地があるように思えます。

(2010年 7月 12日)

\* 無断転載を固く禁じます。転載・引用の場合は当社までご連絡下さい。  
また、転載・引用の際には必ず当社クレジットを明記頂けますようお願い致します。